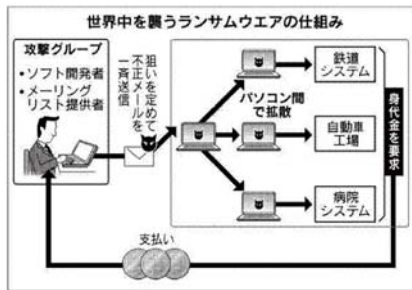


ニュース再チェック!

IoTの盲点突く



世界同時サイバー攻撃

狙われたインフラ

世界同時サイバー攻撃は、鉄道、医療、通信など重要なインフラが集中的に狙われた。あらゆるものがネットにつながるIoTの発展がセキュリティ対策に追い付いていないことが原因。攻撃を受けたのは鉄道や医療、通信などインフラや大規模な生産工場です。「WannaCry (ワナクライ)」と呼ばれる今回のウイルスは、著名ハッカー集団「シャドー・ブローカーズ」が米国家安全保障局から盗み出したものの改良版といわれています。

「被害を受けた情報が複数寄せられた」と明らかになった。民間のJPCERT/CCや、RIT (サイバーセキュリティセンター) による13日午後までに国内で発生した事例はIPアドレスで600カ所、端末は2000台以上、被害は一部と広がっている。

国内で2000機被害

菅義偉官房長官は15日午後の記者会見で、今回のサイバー攻撃について「被害は一部と広がっている」と述べた。



2017年5月16日 日本経済新聞朝刊3面 (抜粋)

北朝鮮、高まる脅威

ミサイル実戦配備を指示



日本事前の察知難しく

北朝鮮が新たな中距離弾道ミサイルの実験配備や量産化を指示するなどの国際社会への発表をエスケールさせている。日本政府は21日、国連安全保障理事会や主要7カ国(G7)首脳会議の場を通じて圧力を強める構え。ただ、米国の圧力路線は「有効」とは見ていないのが実情だ。中国を巻き込んだ緊張緩和などの打開策を迫られている。

日本は事前の察知が難しく、21日の弾道ミサイル発射は、回を事前に把握できていない。北朝鮮が技術力を持っているのは明らかで、防衛省幹部の見方が強い。

2017年5月23日 日本経済新聞朝刊3面 (抜粋)

5月12日、世界中のパソコンがサイバー攻撃にさらされます。150カ国・地域の約20万台のパソコンに被害が及びました。パソコンをウイルスに感染させ、復旧と引き換えに金銭を要求する「ランサムウェア (身代金要求型ウイルス)」が使われました。身代金の支払いには仮想通貨「ビットコイン」が指定されました。攻撃を受けたのは鉄道や医療、通信などインフラや大規模な生産工場です。「WannaCry (ワナクライ)」と呼ばれる今回のウイルスは、著名ハッカー集団「シャドー・ブローカーズ」が米国家安全保障局から盗み出したものの改良版といわれています。

世界がサイバー攻撃にさらされていた14日、北朝鮮は新型弾道ミサイルを発射します。飛行距離は約800km、高度は2000kmにも達しました。ICBM (大陸間弾道ミサイル) の開発に一步前進したものと思われます。北朝鮮は核・ミサイル開発を戦略としていますが、サイバー戦にも力を注いでいます。全世界を混乱に陥れた今回のサイバー攻撃に北朝鮮が関与したのではないかとみられています。

IoTの進展であらゆるものがインターネットにつながるようになり、サイバー攻撃はますます効果を発揮するようになってきています。日本政府はサイバー攻撃に対する対抗措置の検討をはじめました。既に世界60カ国でサイバー攻撃の専門部隊が運用されており、サイバー空間の防衛も重要な課題になっています。

21日、北朝鮮は今年8回目となる弾道ミサイル発射を行い、実践配備と量産化を表明しました。また、各地でIS (イスラム国) によるテロも頻発しています。26、27日にはイタリアで主要国首脳会議 (タオルミナ・サミット) が開かれました。貿易問題や地球環境問題に関しては不一致があったものの、北朝鮮問題やテロ対策では協調を表明しました。しかし、29日に北朝鮮は新型の精密誘導ミサイルを発射。世界の圧力に屈しない姿勢を鮮明にしました。

新聞 (宅配) + 電子版

日経なら、Wプランが断然おトク!

毎月の新聞購読料に +1,000円 で、さらに特典も!



「日経W倶楽部」の特典

- TICKET: 美術展・イベントなど 無料招待・割引
- 会員限定: セミナー開催
- 書籍・グッズなど: プレゼント

「日経W倶楽部」の詳細はこちら

<http://www.nikkei4946.com/nwc/>

日経W倶楽部 検索